

第44回宇都宮市民芸術祭 書道部門 審査総評

今回展の出品数は107点。審査は4月26日に第1次審査、5月24日に第2次審査が行われた。審査は岡村白秋、見日月華、五月女章子、鶴見晨蒲、松本宜響の5名が担当した。

出品作品のジャンル別内訳は

漢字創作	52
漢字臨書	35
仮名創作	9
仮名臨書	1
漢字仮名交じり書	7
刻字	1
篆刻	2

合計107点 前回比13点の増。次回展にはさらなる出品を期待したいところである。

審査員の総評をまとめてみると

○入賞は逃したが地味な作品の中にしっかりと作品感が感じられるものが多くあった。全体的に平均してレベルが向上しているのではなかろうか。

○筆の動きが不自然で残念ながら誤字に見えるものがある。辞書をよく調べて作品を作る習慣を身につけたい。

○漢字臨書にのびのびとして意欲的なものがたくさんあり、これからは楽しみである。

次は市民芸術祭賞、準市民芸術祭賞への感想である。

○市民芸術祭賞 「紙風船（自作）」（漢字仮名交じり書）登坂 時子

風を渴筆で真ん中に据え、紙と船を淡墨で、小書きを船の上においた自然な構成。運筆が余裕を感じさせ流れも自然で、明るくゆったりとした作品となっている。

○準市民芸術祭賞 「五月待つ（古今和歌集）」（仮名創作）中村 秋蕾

五月待つ花橘の香をかげば昔の人の袖の香ぞする

ふるさとは吉野の山しちかければひと日もみ雪降らぬ日はなし

古今集二首を半懐紙二枚に散らした。確かな筆遣いと構成で調和と動きのバランスがとれた佳作となった。

○準市民芸術祭賞 「年逮者」（篆刻）鈴木 直樹

年逮の二字と者の一字を対照させ粗密を美しく見せている。刀法も鮮やかで年寄りにも青春を思い起こさせる爽快な作である。

出品作にはそのほかにも素敵なお作品がたくさんあった。書の道は広くそして深い、楽しみながらともに歩んでいきたいと思う。

妄言多謝。

審査長 松本宜響